

いわきから「ごちゃまぜ」 あらゆる障害のない社会へ

# GOCHAMAZE times

2018 WINTER  
vol. 11

見方を変えれば、  
あの作品も「ごちゃまぜ」でした

## 作品から見る ごちゃまぜ



インタビュー「ごちゃまぜな人」第11回  
高木 市之助さん

# 課題を面白がる心



グラフィックやウェブだけでなくソーシャルデザインまで。いわき市を拠点にさまざまなデザインを手がける高木市之助さん。デザイナーとしてだけではなく、アーティスト的、アクティビスト的に地域に入り込み、福祉や文化芸術などの領域で活動されています。そんな高木さんに、社会課題との向き合い方、課題解決におけるデザインの役割などについてお話を聞きました。

実は最近、「メディアユニバーサルデザイン3級」の資格を取つたんです。デザイナーとしてフリー・ランスになつて、このタイミングでもう一度しっかりとスキルや知識を学ぼうと思って。この試験を受ける前にも、文字組版についてはモリサワの講座を受講してましたし、今も宣伝会議のアートディレクター養成講座を受けたりして、その一環としてメディアユニバーサルデザイン3級を取つてみよう。

3級は主にユニバーサルデザインの定義や色覚に関すること、文字組版に関することが問われる試験でした。昔前だとユニバーサルデザインは「パリアフリー」の意味で使われていたけれど、そもそもパリアフリーとは違つていて、パリアがそもそも生まれないようになります。というのがユニバーサルデザインです。障害のある人や高齢者とかだけでなくて、子どもも、外国人もと、対象はどんどん大きくなるのですよね。

その時の文字組版の先生が「綺麗に文字を組むことは、すでにユニバーサルデザインなんだ」と言つたんですね。確かに、小さい文字をぎゅうぎゅうに詰めちゃつたら読みにくいいし。3級の試験ですが、これまで実践の中で経験したことと理論が結びついで、ああ、こういうことだったのかとか、あれはちゃんとしなくちゃとか、いろいろな気づきがありました。

ただ、ぼくの中では「ものを作る」というところでは両立していく。それが楽しいんですよ。かまぼこメーカーに勤めていた時もそうでした。デザイナーだからって現場の仕事がつまらないからって言つたらいそではなくて、創造も楽しいんです。どうやつたらもっとうまくなるのか、上手に機械を使えるのか、そのソリューションを考えることが楽しかったですね。

デザイナーの佐藤卓さんが言つたんですけど、「世の中にデザインが関係しないものはない」。グラフィックやプロダクトだけじゃなくてソーシャルデザインもあると言つていて、社会といふものを考えたとき、やっぱりデザインつてとても可能性がある言葉だなと。アプローチは大きく違つたけれど、ぼくの中では物作りを通じて社会と向き合うということ、課題を面白がっちゃうというところで、アートもデザインも共存してゐるかもしれません。

**高木 市之助**  
たかぎ・いちのすけ  
グラフィックデザイナー／プランナー。小名浜本町通り芸術祭実行委員長。グラフィックデザイン、映像制作・演出（VJ、小規模のプロジェクトマッチング）、イラストレーション、企画などをフリーランスで行う。

インタビュー「ごちゃまぜな人」第11回  
高木 市之助さん

は、その課題を解決すること自体が面白くなっています。結局デザインって、そういう条件、やりにくさというか、障害のようなものと共に進めるものだと思うんです。

ぼくはデザインにもアートプロジェクトにも関わっていますが、いわきアリオスの長野隆人さんから「市之助さんはアートをするときは自由ですね。ワークショップもああしろこうしろと言わない。こうなっちゃつたらこうしよう」と常にトライアンドエラーのスタイルです。でも、デザインは緻密にやりますよね。その違いはなんですか?」と言われて、最近、デザインとアートについて改めて考

例え、スーパーマリオを普通にクリアしてもいいけど、コインを一枚も取らないでクリアしようと言われて、実はそっちの方が面白かった、みたいたな感覚ですかね。あらゆるデザインは何かしらの制約のなかで動かさる得ません。その解決策を考えるのが面白いんです。言われたことをただやることは辛いことはないですね。なぜこの制約があるのだろう。逆にそっちを解決したらどうだろうとか、これをドッキングしたら発でクリアできるじゃんとか、その辺を考えるのが面白いんですよ。

デザイナーになりたての頃は、自分が作れないことをネガティブに感じていましたが、最近

# この世界は、 ごちやまぜだ

世界は、たった1人の自分を除いて、  
70億人の他者によつてつくられています。  
自分とまったく同じ人など、  
この地球には存在しません。

この社会は「違ひ」によつて成立しているのです。

ところが私たちは、

思わず「同じ」であることを求め、

周囲と同じであることに安心感を覚えがち。

社会を成り立たせている「違ひ」は、

次第に表に出しにくいものになり、

多くの生きにくさが、そこから生まれています。

しかし「違ひ」が、

そのまま生きにくさになるのではありません。

周囲の受け止め方や環境によって、

誰かの生きにくさは変えられるはずです。

社会は、もともとが「違ひ」だらけ。

ごちやまぜタイムズは、

当たり前のことを当たり前にするために、

世の中の「ごちやまぜ」を伝えていきます。



## 特集

# 作品から見る ごちやまぜ

ごちやまぜは、ごちやまぜに伝わります。

直接的なメッセージではなく、どこかに、

そこはかとなく忍ばされたメッセージもあります。

今号で考えていくのは、映画やアニメ、

漫画などの制作物から見るごちやまぜ。

私たちが何万字書いても伝わらないものが、

漫画のひとコマや、映画のワンシーンに込められていくたりする。

そんな「作品のなかのごちやまぜ」を紹介していきます。

伝わり方も、ごちやまぜ。感じ方も、ごちやまぜ。

あなたの感想も、ぜひ聞かせてください。



デザイン  
TOMOHIRO KOMATSU



編集  
KAORI WATANABE



広報 PR  
TAIKAN FUJIKI



企画  
MAMI MATSUOKA



企画  
YUKARI SATO



発行人  
TSUYOSHI KITAYAMA



デザイン  
RIKA UZAWA



編集  
RIKEN KOMATSU

## — WHO WE ARE —

### NPO 法人ソーシャルデザインワークス

私たちは「すべての仲間の幸せを追求すると共に諦めのない社会を創る」を理念に掲げているNPO法人です。2019年現在、福島県いわき市、兵庫県西宮市、熊本県熊本市で障害福祉サービス事業所を展開しています。障害福祉サービス事業を軸とし、障害の有無や性別、国籍、年齢など一切関係なく、様々な属性の方々が自然に交流ができる機会を、ごちやまぜイベントと題し企画運営しています。また、ごちやまぜの発信・広報を行っています。



詳しくは web をご覧ください。

<https://sdws.jp>



11月21日この日は、スクエアが賑やかな声に包まれていました。いつも隅で活動している人や、まわりと打ち解けられない人。普段は見られないような笑顔で、話したい気持ちに言葉が追いつかないような場面が至る所で見られました。

10月のカリキュラム会議のこと。なぜメンバーユーザー（利用者）さんのかな声に包まれていました。いつも隅で活動している人や、まわりと打ち解けられない人。普段は見られないような笑顔で、話したい気持ちに言葉が追いつかないような場面が至る所で見られました。

「個」の活動が多い中で、趣味を通した「実践的コミュニケーションの場」をつくることは重要です。どんな障害や



## 「スクエアサロン」はじめました

文・渡辺香

背景を持ついても、好きなことについて語るメンバーさんの表情はとても生き生きとして見えました。「聞く、話す、楽しむ」コミュニケーションの「良さ」を体験することで、人と関わることへのハードルが少しずつ低くできたら、と感じた1日でした。

11月21日この日は、スクエアが賑やかな声に包まれていました。いつも隅で活動している人や、まわりと打ち解けられない人。普段は見られないような笑顔で、話したい気持ちに言葉が追いつかないような場面が至る所で見られました。

「個」の活動が多い中で、趣味を通した「実践的コミュニケーションの場」をつくることは重要です。どんな障害や

# SOCIAL SQUARE

-ソーシャルスクエア-

から



ソーシャルスクエアには、さまざまな生きにくさを抱える方が自立や就職を目指し通っています。このコーナーではソーシャルスクエアの活動報告や利用しているメンバー、働くクルーの声をお届けします。

### SOCIALSQUAREとは

ソーシャルスクエアは障害や生きにくさを抱えた方に就労移行支援と自立訓練（生活訓練）を行う多機能型の福祉事業所です。通所しているメンバーは自分の生活リズムを整えながら、他者とのコミュニケーションやビジネススキル、ストレスコントロールなど、働くことや安定した生活を送る為に必要な知識やスキルを学びます。ソーシャルスクエアは「社会と現在の自分を結ぶための広場」というコンセプトを掲げ、メンバー自身のスキルアップだけではなく、社会と繋がるためのカリキュラムやイベントも積極的に行ってています。

## 梅田・神戸へ企業見学

文・川野満哉

西宮では基本的に月に1度企業見学の機会を設けています。就労を目指す中で働く現場の環境を知り、雰囲気を感じ、その企業のことや働くことなどなどについて知るための機会提供をしています。参加された方々は企業側に「待遇面について・どのような障害のある方が働いているのか・業務ミスへの対策・相談窓口等の利用頻度」などを質問し、自分が企業に求められていることや気になることを直接聞ける機会にもなっています。なかには見学をきっかけにその企業に興味を持ち実習に繋がったケースもありました。

現在は特例会社を中心で見学をしていますが、西宮は大阪や神戸といった中心街にも近く多くの企業に触れるチャンスが



## 熊本店いよいよスタート！

文・緒方豪太

ソーシャルスクエア熊本店は水前寺公園附近に1月開設に向けて準備しています。開設するサービスは自立訓練と相談支援事業所になります。熊本市を半年近く外交し、熊本市を少しでも貢献できるサービスは何か。地域の皆さんの声を参考に事業内容を決定しました。

相談支援事業に関しては法人内でも新しいチャレンジになりますので、地域の皆さんのがサポートを頂きながら徐々に頑張っていきたいと考えています。自立訓練に関しては「ふらっと立ち寄れる広場」を演出できるようなデザインをイメージしてリノベーションしています。スクエア内にはカウンターキッチン、畳部屋、卓球台なども設置されています。



すでに、気軽に遊びに来ていただけると嬉しいです。利用者さんはもちろんですが、私たちクルーもワクワクできるスクエアを作り、働く私たちの笑顔も追求しながら、熊本を少しでも元気にできるよう頑張っていきたいと思っています。

**いわき店**  
福島県いわき市内郷内町水之出17  
ソーシャルスクエアビル1F  
0246-84-8301 ss\_iwaki@sdws.jp

**西宮店**  
兵庫県西宮市中前田町1-27  
ラビットビル1F  
090-8377-4839 ss\_nishinomiya@sdws.jp

**熊本店**  
熊本県熊本市中央区水前寺公園3-4  
土山天祐堂ビル2F  
070-7587-9202 ss\_kumamoto@sdws.jp

あなたの「やりたい」を応援します。  
まずは少し覗きに来てみてください!  
For more information  
<https://socialsquare.life>

SOCIALSQUAREいわき店  
サービス管理責任者 今泉俊昭

私は10年前まで動物が苦手だった。そんな私が一目惚れをして犬を買ってしまった。その日から愛犬との幸せな生活が始まる。ただ、私は犬の親を知らない。血統証が送られてきたときにどの犬から産まれたかを知る機会はあった。でもその親犬がどんな見た目で、どんな生活をしているのか知らない。

子犬は片手に乗るくらい小さな時に親から引き離され、ガラスの中で生活をしていた。そんな子犬を可愛いと思い、購入した自分が大きな間違いを犯したと感じている。

日本では今は殺処分が当たり前に行われ、動物愛護団体が頑張つても殺されるスピードには追いつかない。

かわいそうだと思うけど行動に移すのは難しい。でも誰かとそのことについて話してみる。自分でできる小さなことから始めるのもいい。それが大きな流れになる。誰かと話をしてみるとが世界を変えるきっかけなのかもしれない。

今回、考えてみるのはスロープ。階段は高齢者や身体障害の方にとってはバリアになります。それを解決するために、出てきたのがスロープ。バリアフリーの象徴的なもののひとつですが、問題点もあります。数段分の高さをカバーするにも面積に余裕がないと設置が出来なかつたり、設置しても急勾配だったり、長かったりひとりでは登れないケースが多くあります。

もちろん、それを必要な人がでいているのも事実です。ただでさえ、一定のバリアを消すことができているのも事実です。ただでさえ、一定のバリアを消すことができます。電車の入り口も大中小とそれなりの大きさがあり、それがリズミカルな要素になり見た目として魅力になっていたりします。ぜひ、今回の特集と合わせてそういう発見もしてみてください。

では、どうすればいいのか。大事なことは、世の中には、いろいろな人がいることを前提にして考えていこと。これはユニバーサルデザインの基本理念であります。今回の特集であげたストーリアでも随所にそれを感じられるシーンがみられます。電車の入り口も大中小とそれなりの大きさがあり、それがリズミカルな要素になり見た目として魅力になっていたりします。ぜひ、今回の特集と合わせてそういう発見もしてみてください。

この作品のごちゃまぜポイントはどこか?という、共通の視点を持った上で、我々編集部は、作品ひとつずつと向き合いました。すると、不思議なことに一度観た/読んだことがあった作品も新しい世界が見えてきたのです。すでに観た/読んだ作品も、そしてこれからの作品も、「視点」を意識することで、きっと新たな出会いがあるはずです。今回掲載しているポイント以外にも、あなたが感じる「ごちゃまぜポイント」をぜひ探してみて下さい。企画/松岡真満

## 世界を変えるきっかけ



ゆかりの視点

いろいろな人が社会で生活していくために、これは必要だよねというものを取りあげて、少し違う角度から考えてみる。このコラムではそんなことをしていると思います。

事なことは、世の中には、いろいろな人がいることを前提にして考えていこと。これはユニバーサルデザインの基本理念であります。今回の特集であげたストーリアでも随所にそれを感じられるシーンがみられます。電車の入り口も大中小とそれなりの大きさがあり、それがリズミカルな要素になり見た目として魅力になっていたりします。ぜひ、今回の特集と合わせてそういう発見もしてみてください。

最新記事はWEBのGOCHAMAZETimesで!



<https://gochamaze.jp>  
今回の特集やインタビューの全文を公開中!過去のタブロイドのアーカイブはもちろん、ウェブ限定のインタビューや対談など、ここでしか読めない記事も豊富にあります。ぜひ一度ウェブ版をご覧になってみてください。

GOCHAMAZETimes 2018冬号

発行日|2019年1月4日  
発行人|北山剛  
編集|小松理慶(ヘキレ吉舎)、渡辺香  
デザイン|鶴澤里佳(marutt)、小松知寛  
撮影|今泉俊昭、奥田峻史  
協力|いわき市まち・未来創造支援事業

これって、  
ごちゃまぜ?

疑うことから  
はじめるコラム